

縄文の風

藤原 征子（茅野市）

やつがねの ふもとに立てば
太古の朝の 風ガ吹く
神と共に生きた人々
悠久の大地に 命のつながり

おそろしき地鳴りと 火を吹くハツの峰々
昇る太陽と満ちる月に時を知り
めぐり来る オリオンの光 そして輝く北斗星
驚きと 畏敬の想いは ひたすらに
心にあふれる あこがれと
勇気に 生きた かの時代

このうるわしの茅^{かや}の里
あの丘の 木立によりそえば
聞こえるでしょう ざわめきが
狩人たちの ときの声
神にささげる 祭りうた

もしかしたら……君も、私も
縄文時代に 生きていたかも？
想いをはせよう 遠い記憶に
ハヶ岳に湧く 白い雲を見て

矢じりをみがき 狩りをしたのは
もしかして 君か……
稲穂をさがして 栗の実を集めたのは
もしかして……私かも
もしかしたら
雲母に光るビーナスを
創ったのは……あなた？

逢いに来たよ 君に！
5000年の かなたから
あいにくたよ 君に！
5000年の 時をへて
生れかわった 君に

かの縄文の 富める文化と
なつかしい人々の 想いも つれて！
あいにくたんだよ 君たちに

ああ やすらぎの丘 豊じょうの地
千古の民の命を つなぎ来て
今、ここに よみがえる
なにを言わんや 伝えんと

ようこそ、 縄文の ビーナスよ
ようこそ、 仮面の 女神さま